

第2章 地域及び公共交通の現況

(令和5年3月)

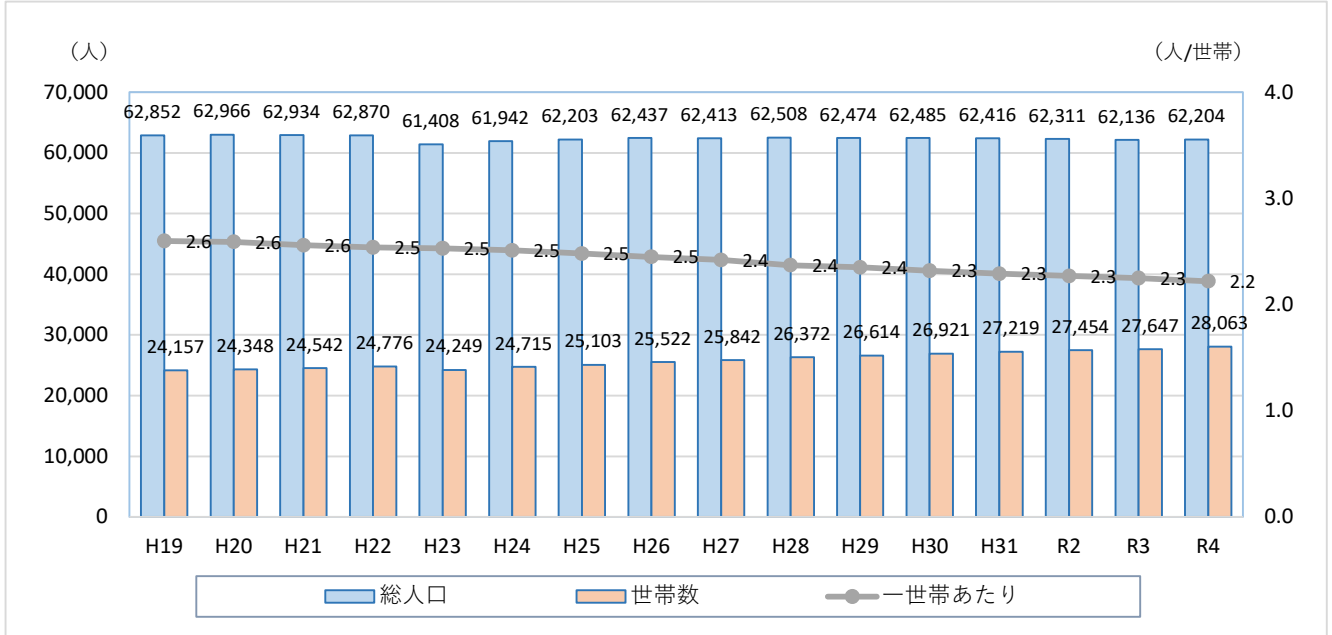
2. 地域及び公共交通の現況（令和5年3月）

2-1 地域の現況

(1) 人口

①人口の推移

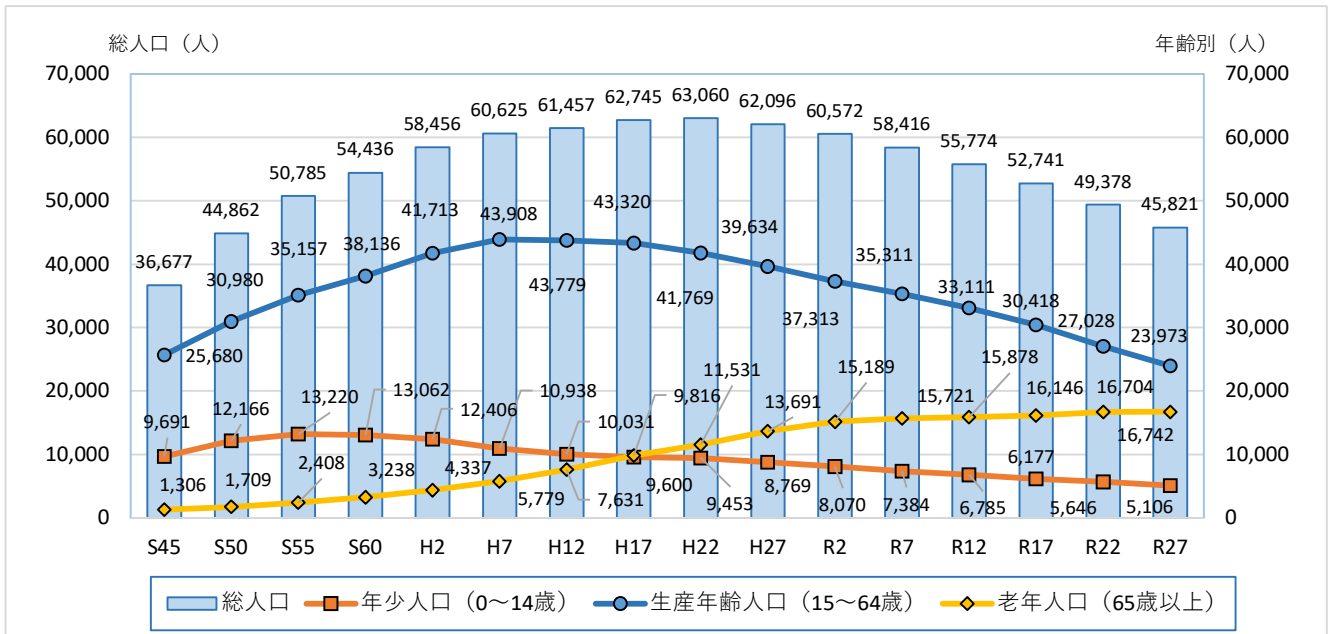
- 本市の総人口は、平成28（2016）年度が62,508人、平成31（2019）年度が62,416人、令和4（2022）年度が62,204人で近年の人口推移は微減傾向にある。
- 老年人口は年々増加傾向で平成17（2005）年度以降は年少人口を上回っており、令和47（2065）年度には総人口の約3割を占める17,030人となることが予想されている。
（令和3年3月の推計では、多賀城市人口ビジョンに示す将来の人口展望の数値を使用しています。）



資料：H23～H30 多賀城市統計書（各年12月末現在）

H31-R4 多賀城市住民基本台帳移動別集計表（12月末現在）

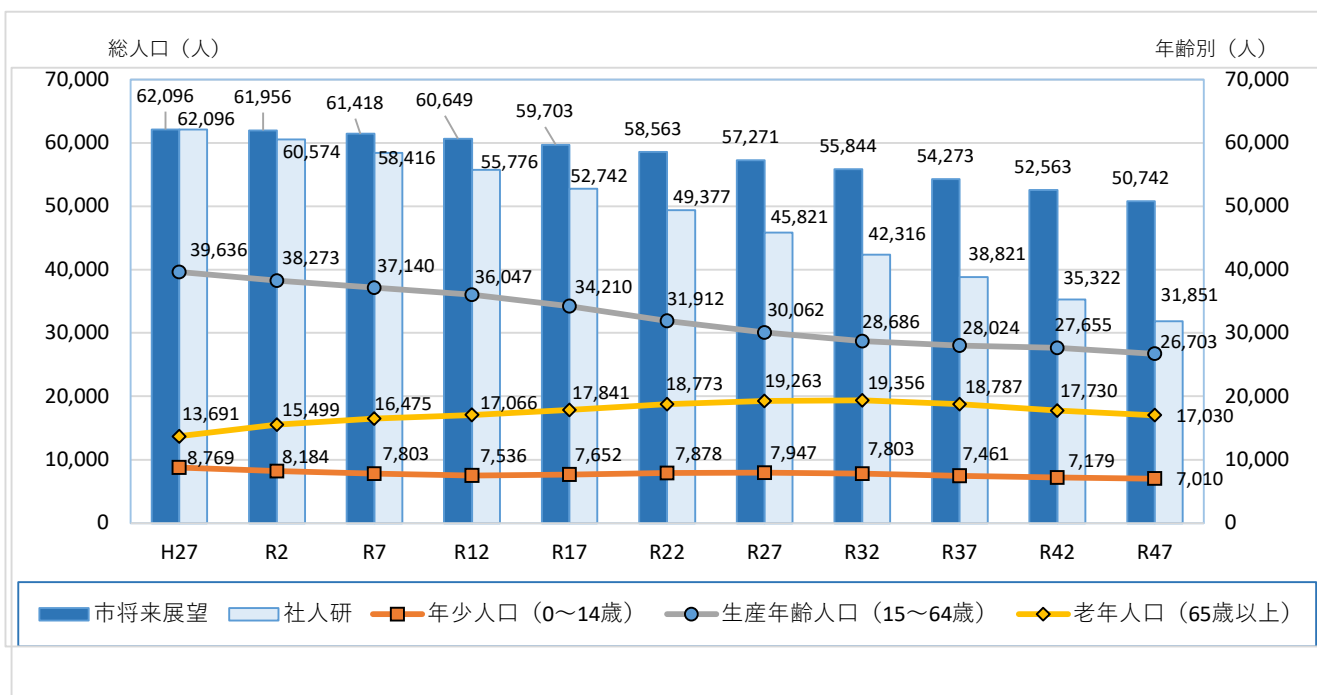
図 2-1 人口と世帯数の推移



資料：～H27 H27国勢調査

R2～ 国立社会保障・人口問題研究所（H30年推計）

図 2-2-1 年齢3区分別人口推移と将来推計

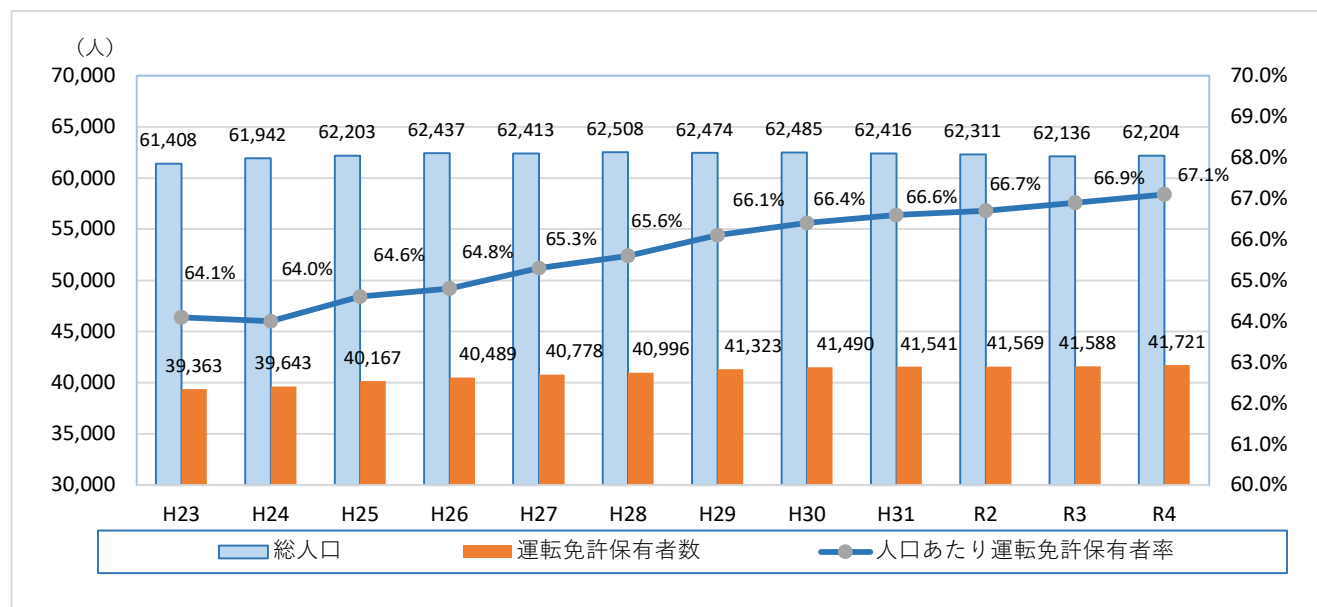


※社人研は、「国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」をいいます。

図 2-2-2 多賀城市人口ビジョンに示す人口の現状及び将来の人口展望

②運転免許保有者数

- ・運転免許保有者数は年々増加傾向にあり、人口あたり運転免許保有者数は右肩上がりで増加している。



資料：運転免許保有者数 宮城県警察交通部運転免許課（各年12月末時点データ）
人口 多賀城市統計書

図 2-3 運転免許保有者数の推計

(2) 今後のまちづくりによる需要変化

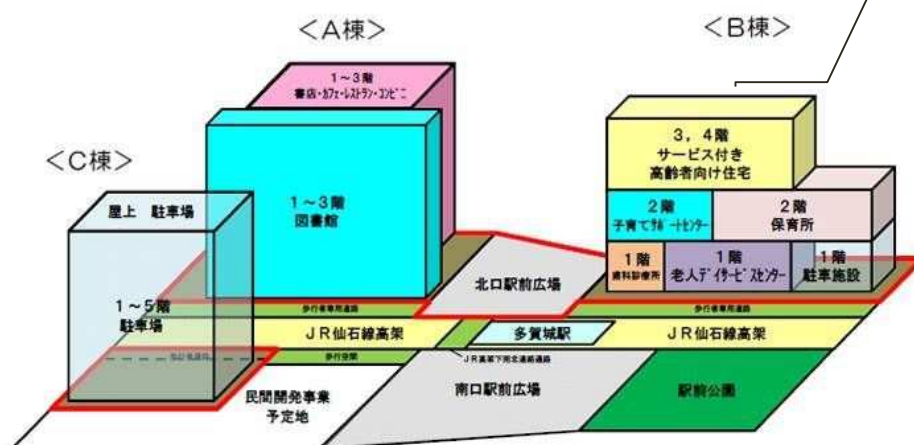
① 多賀城駅周辺整備事業

- 本市ではJR仙石線多賀城駅を中心とした市街地の活性化を目指し、多賀城駅周辺土地区画整理事業及び多賀城駅北地区第一種市街地再開発事業に取り組み、平成29（2017）年に事業が完了した。
- 多賀城駅周辺土地区画整理事業により、駅前の道路や公園等の公共施設が整備された。
- 多賀城駅北地区第一種市街地再開発事業により、平成28（2016）年3月には再開発ビル3棟が整備され、図書館や書店、カフェ、レストラン、子育てサポートセンター等、幅広い年代の人々が集える様々な機能が集積している。
- また、図書館を中核とした「東北随一の文化交流拠点」が形成された。
- 再開発事業にあわせて、多賀城駅前と文化センターをつなぐ都市計画道路「史都中央通線」が整備された。



駅北A棟－外観、図書館内

駅北B棟



※資料：多賀城市HP

図 2-4 多賀城駅周辺整備事業

② 多賀城市津波復興拠点整備事業「さんみらい多賀城・復興団地」

- 東日本大震災における甚大な被害を踏まえ、「減災都市多賀城」と産業復興を実現するため、防災・減災拠点、産業復興支援拠点及び地域経済・地域雇用牽引拠点となる工業団地を八幡地区に整備された。
- 防災備蓄倉庫及び消防署などの公共施設を配置するとともに、工場、事業所や近隣住民が集える公園が整備された。
- 令和3（2021）年3月時点において、全ての区画の立地が完了し、12社が操業を開始している。
- 復興団地企業全体で約430人の雇用が確保された。

事業名：多賀城市津波復興拠点整備事業
計画区域：多賀城市八幡字一本柳地区



図 2-5 さんみらい多賀城・復興団地 イメージ図

③ 災害公営住宅

- ・平成28（2016）年度に、市内4ヶ所・532戸の災害公営住宅の整備が完了した。
- ・宮内地区災害公営住宅においては、バス停からの距離が約700mと、やや遠い。

表 2 - 1 災害公営住宅

地区名	最寄バス停	路線名	バス停までの距離
桜木地区	笠神新橋	多賀城東部線	約 300m
	仙塩総合病院前	七ヶ浜町民バスぐるりんこ	
新田地区	市営新田住宅前	多賀城西部線	目の前
鶴ヶ谷地区	警察学校前	多賀城東部線	目の前
宮内地区	北谷地	汐見台団地線	約 700m

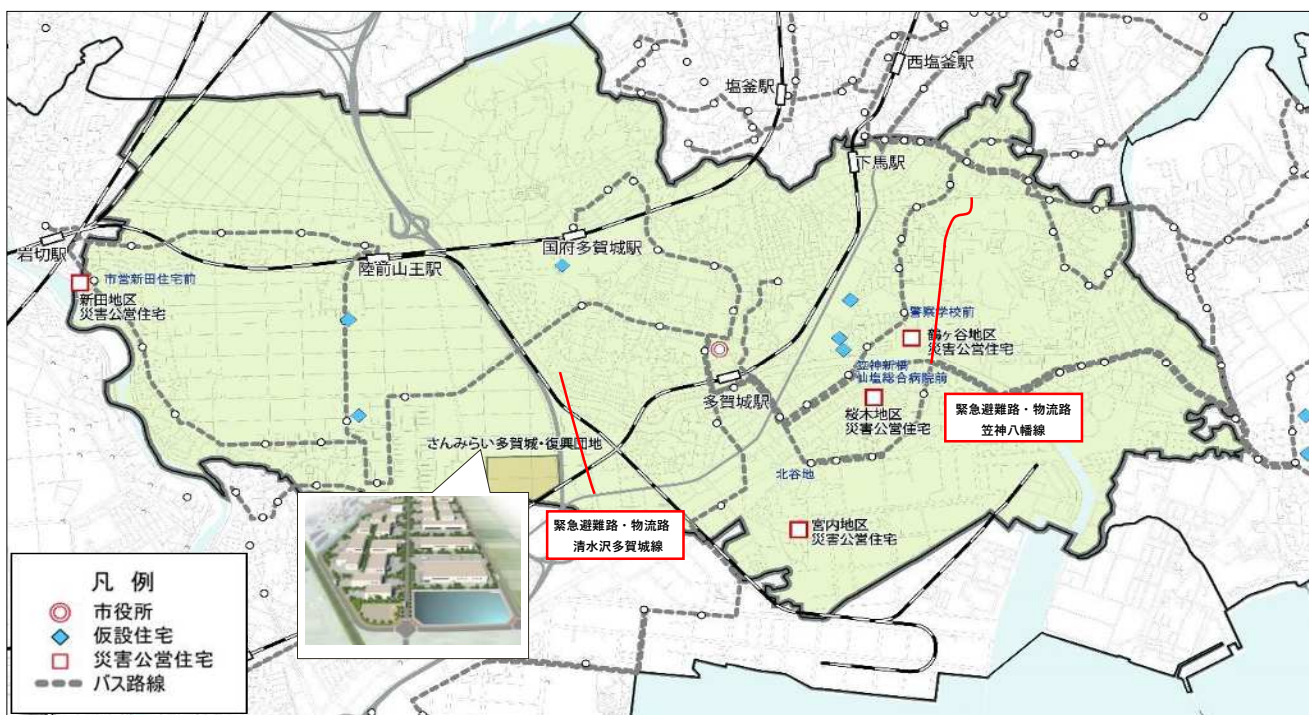


図 2 - 6 復興関連事業 位置図

④ 震災復興事業の進捗

- ・東日本大震災の津波により大きな被害を受けた地域から、高台方向の市街地に避難することを目的として整備している、緊急避難路・物流路整備事業において、清水沢多賀城線が令和2年度に完了し、同事業の笠神八幡線は、令和3年度に完了した。

2-2 公共交通の現況

(1) 生活交通の現況

- 本市にはJR東北本線、JR仙石線の2本の鉄道路線が通っており、国府多賀城駅、陸前山王駅、多賀城駅、下馬駅の計4箇所の駅が設置されている。
- 路線バスは、本市で運行の補助を行っている多賀城東部線、多賀城西部線のほか、汐見台団地線、七ヶ浜町民バスぐるりんこ、NEWしおなび100円バス等が運行している。
- その他にも、買物、通院等の公共・民間送迎バスが運行しており、一部では路線バス等と重複している。
- 荒井多賀城線は新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年4月25日から運休している。
- 市内には3社のタクシー業者が営業している。
- 多賀城東部線・多賀城西部線においては、令和4年10月から、65歳以上及び障害のある多賀城市民を対象とした社会実験（ICT活用の要件あり）を実施している。

表 2-2 生活交通の運行状況

令和5年3月現在

鉄道	事業者	市内駅	便数		●運賃 ○支払い方法
			平日	休日	
JR仙石線	東日本旅客鉄道(株)	多賀城駅、下馬駅			12~13分に1便
JR東北本線	東日本旅客鉄道(株)	国府多賀城駅、陸前山王駅			23~25分に1便
路線バス	事業者	主な経路	便数		●運賃 ○支払い方法
			平日	休日	
多賀城東部線	(株)ミヤコーバス	国府多賀城駅～汐見台中央	28	10	●距離制 ○現金、ICカード
多賀城西部線	(株)仙塩交通	多賀城駅 又は市民プール発着	12	7	●定額(200円) ○現金、フリーパス、回数券
汐見台団地線	(株)ミヤコーバス	多賀城駅～菖蒲田	23	16	●距離制 ○現金、ICカード、定期券
荒井多賀城線	(株)ミヤコーバス	多賀城駅～荒井駅	0	12	●距離制 ○現金、ICカード、定期券
NEWしおなび100円バス	(株)ジャパン交通	東南部コース(笠神～下馬)	4	0	●定額(100円) ○現金
七ヶ浜町民バス ぐるりんこ	(株)ジャパン交通	朝夕便:花洲～多賀城駅 日中便:七ヶ浜国際村～多賀城駅	18	18	●距離制(町内100円) ○現金、フリーパス
85系統陸前高砂行	仙台市交通局	陸前高砂駅～高砂市営住宅 (高橋地区経由)	10	4	●距離制 ○現金、ICカード、定期券
205系統東北大学病院行	仙台市交通局	東北大学病院～高砂市営住宅 (高橋地区経由)	28	22	●距離制 ○現金、ICカード、定期券
タクシー					
(株) 塩釜東光タクシー、(有) 振興タクシー、多賀城交通(株)					

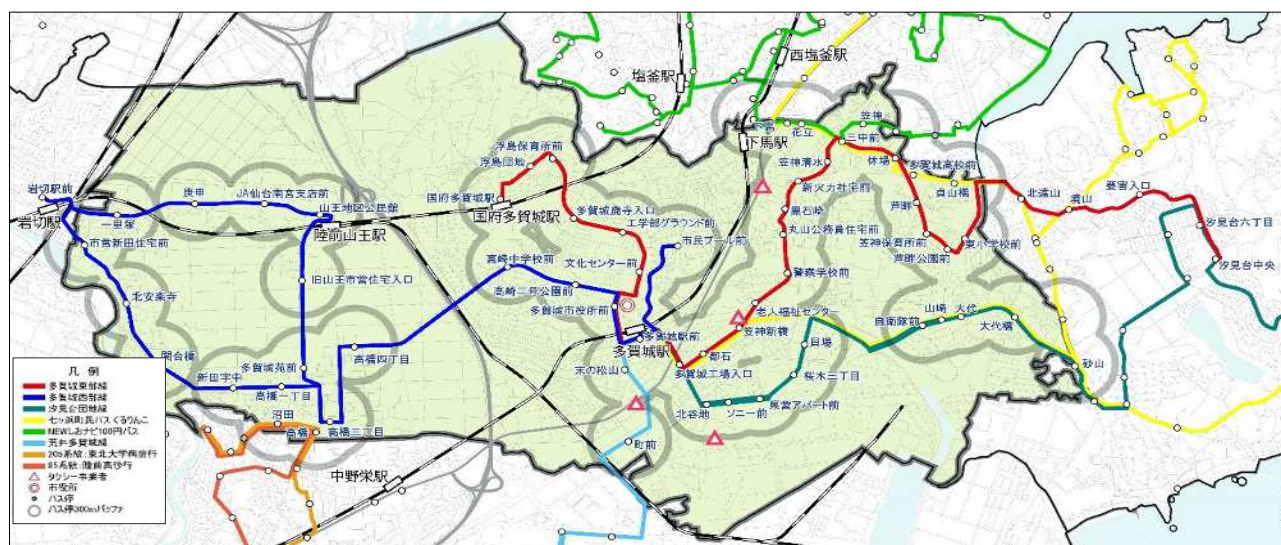


図 2-7 市内生活交通

(2) バス運行の実績

① 利用者数の推移

- ・ コロナ前の多賀城東部線、多賀城西部線の利用者数は、いずれも平成30（2018）年度までは増加傾向であったが、平成31（2019）年度には微減となった。
- ・ 令和2（2020）年度、令和3（2021）年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大きく減少している。

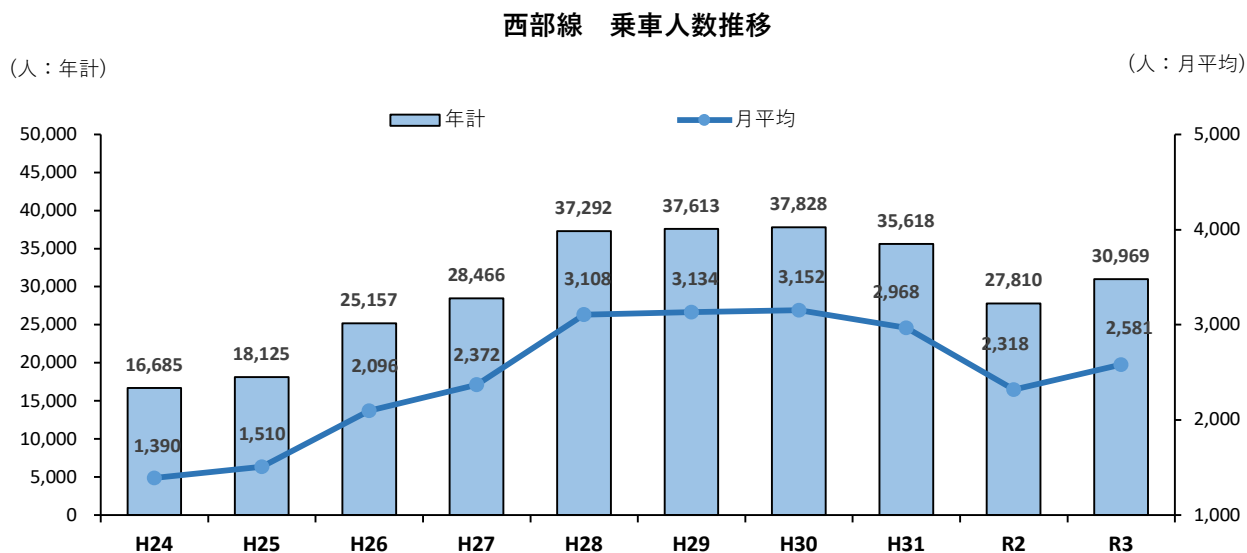
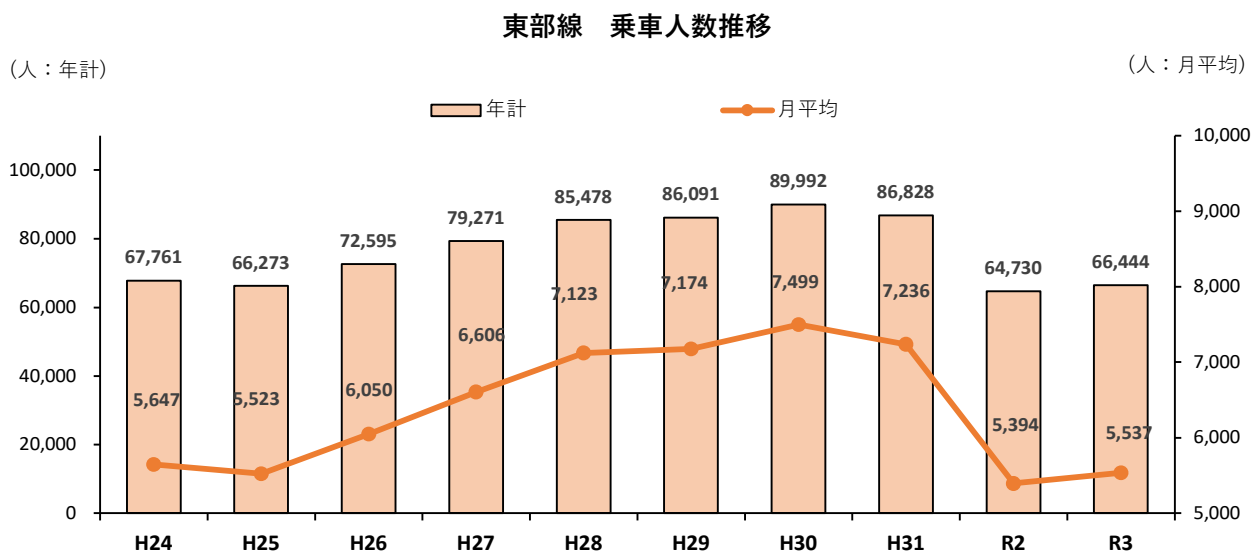


図 2-8 乗車人数の推移

② 収支率(運行経費に対する運賃収入の割合)の推移

- ・ 多賀城東部線：コロナ前の運賃収入の変化は少ないが、運行経費の増加により、収支率が減少している。
- ・ 多賀城西部線：コロナ前の運賃収入の変化は少ないが、運行経費の増減により30%前半で推移している。
- ・ 令和2（2020）年度、令和3（2021）年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大きく減少している。

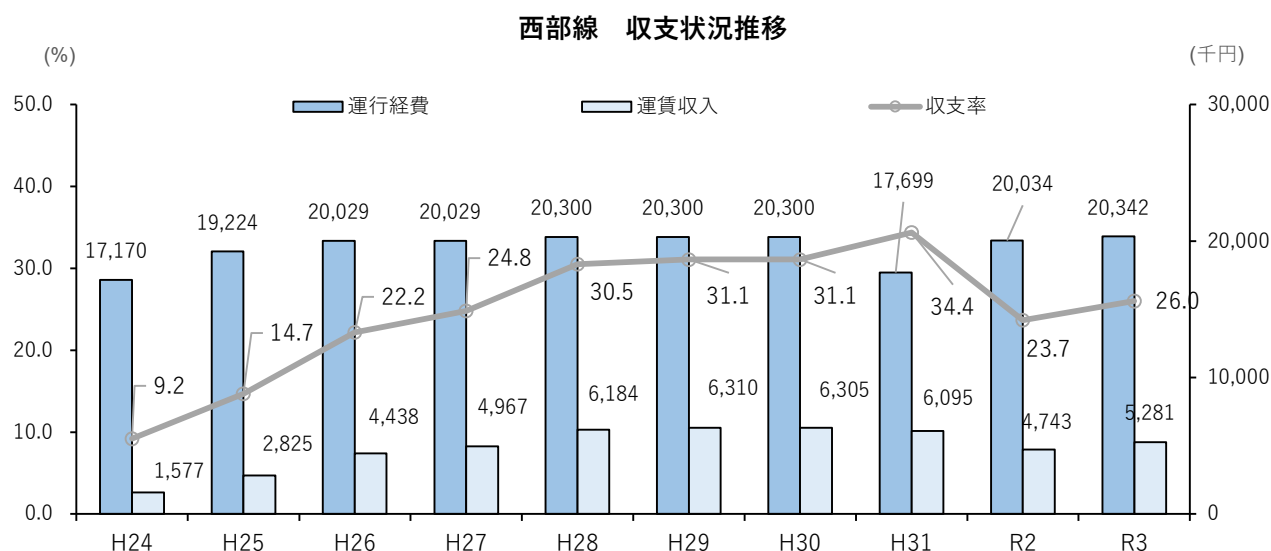
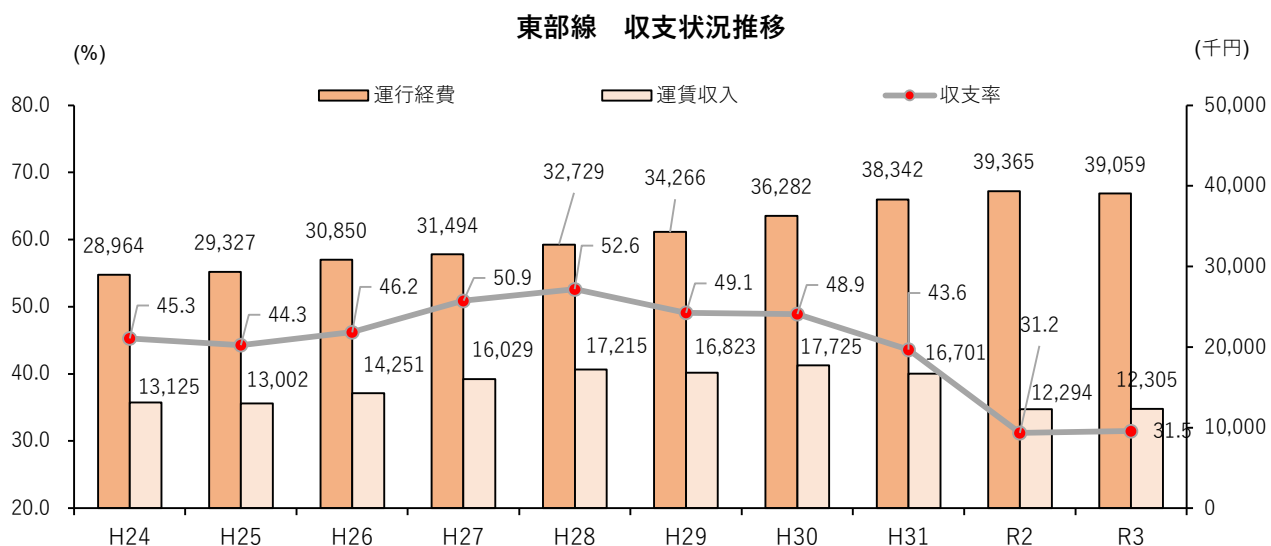


図 2 - 9 収支状況・収支率の推移

(3) バス利用実態調査結果

① 調査概要

- 調査結果の概要は以下のとおり。

調査目的	バスがどのように利用されているのか、現況の変化に伴うバス利用の変化を把握する		
調査対象	多賀城東部線、多賀城西部線		
調査方法	調査員がバスに乗車してきた利用者にアンケート調査票を配布・回収 回答拒否の場合は、調査員の口頭又は目視による利用者属性、乗降バス停の確認を行う		
調査日 (平日3日、休日1日)	東部線：令和元年12/5（木）、12/6（金）、12/8（日）、12/9（月） 西部線：令和2年1/8（水）、1/9（木）、1/10（金）、1/11（土）		
調査項目	(1)利用者属性 (4)最終目的地 (7)自由回答	(2)乗降バス停 (5)利用頻度 (8)バスルートの変更に関する意向	(3)利用目的 (6)バス利用の変化 (9)往復利用の確認

② 回収票数

- 回収票数は多賀城東部線で919票(平日計838票、休日81票)、多賀城西部線で437票（平日計378票、休日59票）となっている。

回収票数		平日		休日	合計
		12/5（木）	12/6（金）	12/8（日）	
回収票数	東部線	276	277	81	919
	西部線	115	124	59	

③ 調査結果概要

- 多賀城東部線、多賀城西部線の調査結果のとりまとめは以下のとおり。

	性別	年代	居住地	支払方法
利用者属性	東部線 男性26%、女性74% 西部線 男性25%、女性75%	東部線 60代以上が4割 西部線 60代以上が5割	東部線 市内67%、七ヶ浜町28% 西部線 市内96%	現金、ICカード 回数券、フリーパス
乗車バス停 ・ 降車バス停	多賀城駅での乗降利用が多い→鉄道利用のための駅までの利用手段 東部線：多賀城駅に集中 西部線：多賀城駅のほか、岩切駅の利用も多い			
利用目的	通勤・買物・通院が多い			
利用頻度	東部線：週に1日以上が全体の77%、うち、週に3～4日が30%で最も多い 西部線：週に1日以上が全体の68%、うち、週に1～2日が26%で最も多い			
往復利用	東部線：往復利用が67%、行き・帰りのみ利用が33% 西部線：往復利用、行き・帰りのみ利用ともに50%			
自由回答	東部線：17時台以降の増便に関する要望が多い 西部線：運賃や増便に関する要望の他、バスサービスを評価する意見が多い			

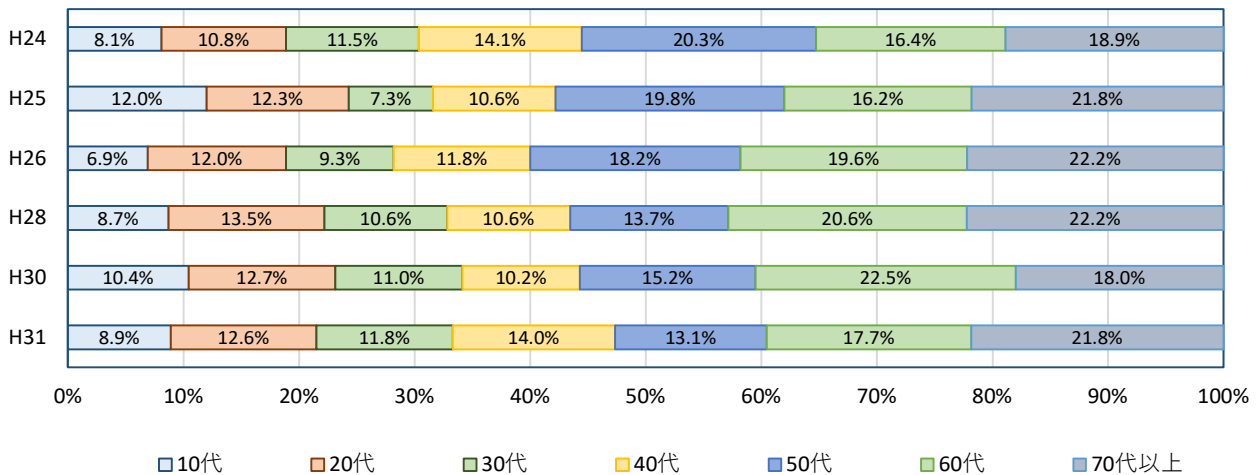
④ 過年度比較

- ・ 本調査結果と過年度(平成26年度～平成30年度)に実施した調査結果で経年比較を行った。
- ・ 比較対象は平日3日間の集計結果、比較項目は「利用者年代」と「利用目的(通勤、通学、通院、買物、スポーツ・レジャー)」の2点とする。なお、無回答の結果は除く。

【多賀城東部線】

- ・ 利用者年代の構成割合は、50代以上が減少、平成26年度に59.5%であったが、52.6%まで減少している。
- ・ 利用目的の構成割合は、「通勤」と「通学」を合わせると約60%、全体としての大きな変化も見受けられない。
- ・ 利用者年代、利用目的に大きな変化は見られず、路線として成熟していることが確認できる。

多賀城東部線 利用者年代別



多賀城東部線 利用目的別

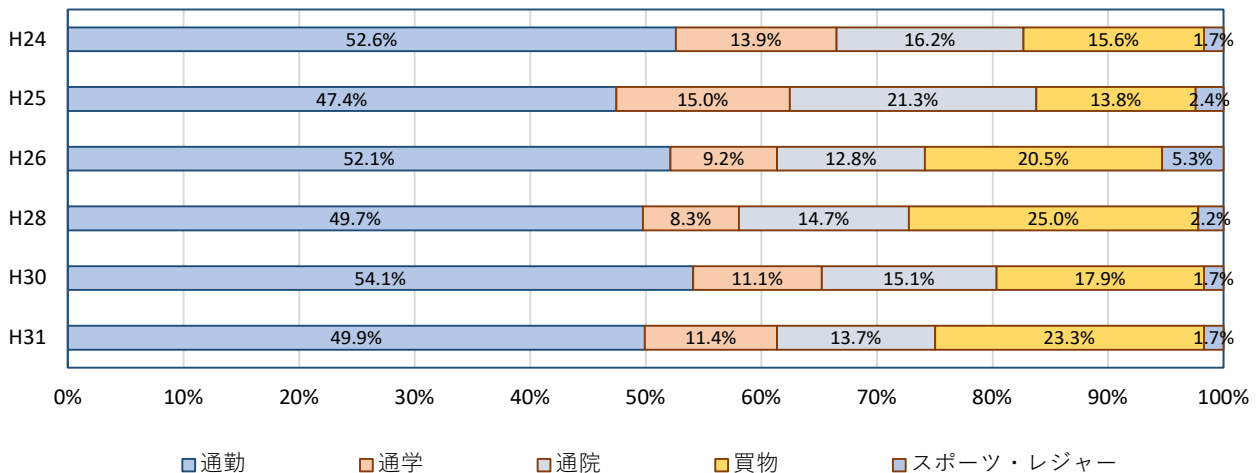
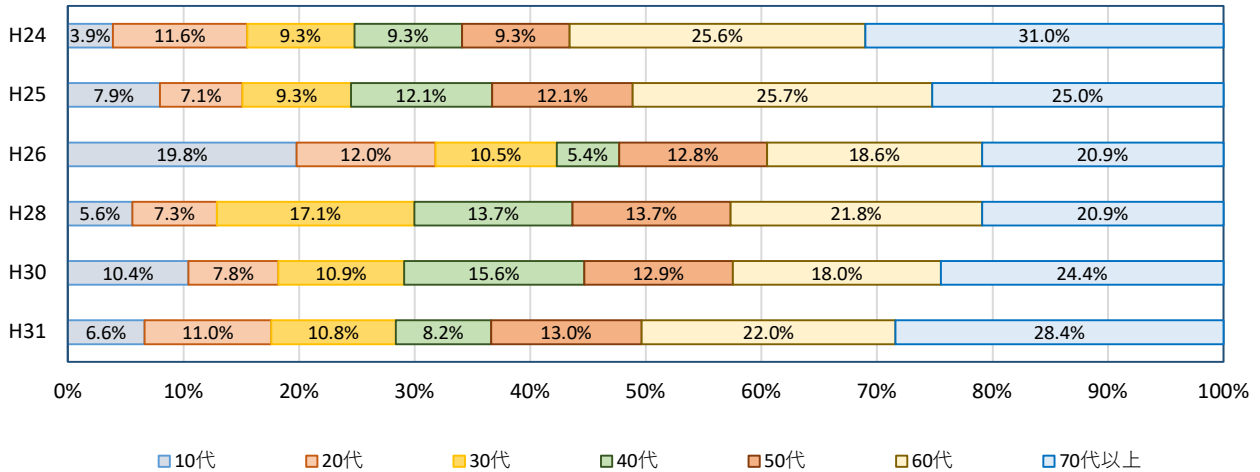


図 2 - 1 0 東部線 経年比較

【多賀城西部線】

- ・ 利用者年代の構成割合は、50代以上で増加している。
- ・ 利用目的の構成割合は、「通勤」が約4割を占めている。
- ・ 多賀城西部線は平成23年12月に被災者支援を目的に運行を開始した。経年比較により、路線としての役割が徐々に変化していることが確認できる。

多賀城西部線 利用者年代別



多賀城西部線 利用目的別

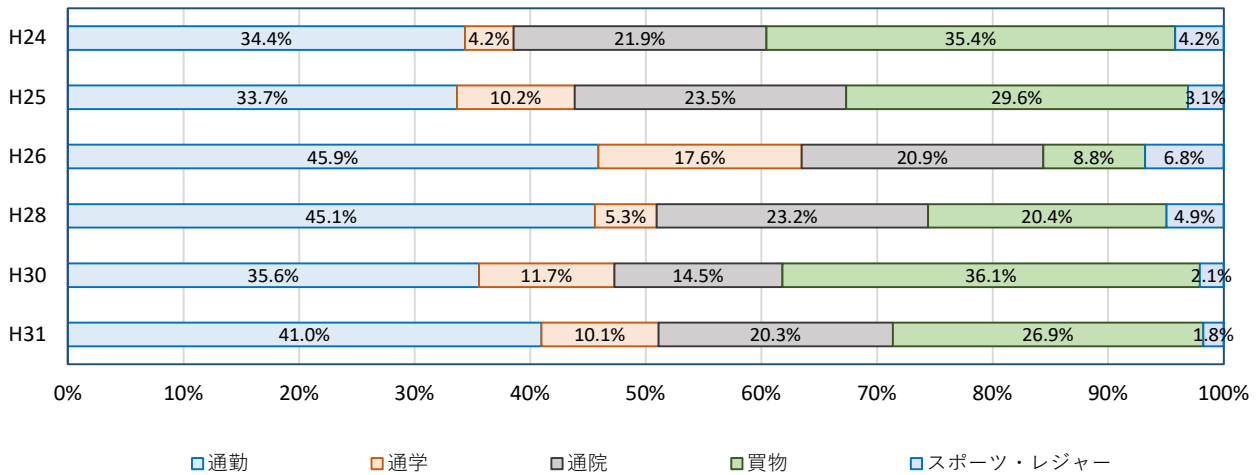


図 2 - 1 1 西部線 経年比較